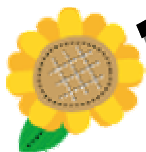


# ワーキング ヴォイス



NO. 17 2010年 7月15日

現在、農家の高齢化や農業後継者不足などの問題から、行政などから就農希望者に対して様々な手厚い新規就農支援制度が実施されており、制度を活用して農業に挑戦される方が増加しています。また、国内農業を取り巻く厳しい状況下において、新規就農者は貴重な農業の担い手だと思われます。ワーキング ヴォイス 7月号では『新規就農』をテーマとし、(財)えひめ農林漁業担い手育成公社に就農支援制度の概要などをお伺いしました。後半では新規就農者と就農に向け研修中の方々に現状をお聞きしました。



(財)えひめ農林漁業担い手育成公社の後継者育成班長をされている井上さんに県内の新規就農者支援制度の概要と課題などをお伺いしました。

**Q 1 : えひめ農林漁業担い手育成公社の概要および役割を教えてください。**

農地の保有合理化事業というものと農林漁業後継者の確保及び育成に関する指導の二事業が大きな柱となっています。

**Q 2 : 例えば、会社員をされている方が農業に興味を持って就農を希望した場合に相談窓口になってもらえるのでしょうか。**

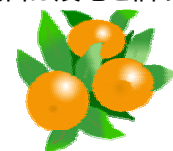
基本的には全県的な窓口になっていますが、県の各地方局に農業指導班とか地域農業室などの窓口機関がありますので、それぞれの役割分担を持ちながら就農希望者の相談を受け付けています。

**Q 3 : 市町や農業団体などが実施している新規就農支援制度の相違点を教えてください。**

市町ごとに相違はあるのですが、農業後継者支援や定住支援対策など一般行政事業と並行して熱心に就農支援に取り組まれている自治体もごさいます。基本的には担い手育成公社と同じような支援事業を実施されているようです。

**Q 4 : 新規就農者が農地を確保する方法や手段を教えてください。**

農地を取得するためには農業委員会の許可が必要となります。希望する農地面積が下限面積に満たない場合は農地を借りたり所有することができません。農業委員会が定める要件に照らし合わせて許可された場合にはじめて借入れや購入することができます。



**Q 5 : 担い手育成公社では農地の斡旋はしていないのですか。**

基本的に新規就農者には行っておりません。『農地保有合理化事業』というのがあり農業規模を縮小あるいは廃業する農家が所有する農地を担い手育成公社が一時的に保有し、それらの農地を購入したい方に譲り渡すまでの間の中間保有は行っています。例えば、就農希望者がまとまった面積の農地を購入するだけの資金を持たれている場合でも面積的に1ヘクタール以上が条件となりますので、なかなか金銭面で条件をクリアされて、上記の事業で農地を確保する新規就農者はほとんどいません。市町の農業委員会に相談すれば、その地域の中で誰が農地を借りても同じような料金で借りることができます。

**Q 6 : 担い手育成公社で実施されている支援制度を利用するメリットを教えてください。**

就農希望者から相談を受け付け、県内各地域の相談機関と連携しながらフォローワークさせていただくことが就農希望者へのメリットになればと思っています。

**Q 7 : 担い手育成公社で実施されている就農支援制度の概要を教えてください。**

『営農インターン推進事業』と『農林漁業体験ステイ事業』です。農業をしてみたいが、実際に農業を体験したことがない人が多いので、『農業体験ステイ事業』でまずは一度、農業を10日ほど経験して頂いた中で、本気で就農を目指される方もいれば自分の適性を判断し向いていないと思われる方がおられます。本格的に就農したい方については『営農インターン推進事業』というのがあり、実践的な農業技術習得の研修を受けます。具体的には愛媛県内で就農可能な40歳未満の方が対象となり先進農家などで実務研修を受けていただきます。

Q 8 : 愛媛県立農業大学校や果樹試験場でも研修制度があるようですが連携はされているのですか。

しています。基本的に試験場関係の場合はより専門的な研修内容となりますが、担い手育成公社の研修制度では実際に農家に入って研修指導を受けることとなりますのでそのあたりが相違点でしょう。就農希望者がどのような研修を受講したいかによりますね。

Q 9 : 近年の県内就農者数を教えて下さい。

平成 21 年度中に就農された方々の内訳は 40 歳未満で 62 名、40 歳から 65 歳未満の方が 44 名の合計 106 名の方が就農されました。



Q 10 : 経済不況により就農に興味もつ方が増加していませんか。

あると思います。相談者の中で農業関連の法人に就職したいという方が増えていますね。比率的には農業法人に就職希望の方と自営農家を目指される方は半々くらいでしょうか。相談者の年齢構成も 20 歳代から 60 歳近くの方まで幅広いですね。

Q 11 : 農業へ職種転換に成功するための要因ならびに助言を教えてください。

事前に就農にむけた綿密な計画をもっていることが一つのポイントになってくると思います。就農したい市町の選定やどれくらいの耕作面積の農地を持ち、どのような農産物を生産するのかなどが重要です。所得目標も明確に持ち生産された農産物をどこに販売していくのかなどの要因を就農前から計画しておかないと成功しづらいと思います。私の方としてもそういう具体的な計画を相談者がお持ちでないとは助言しづらいのが正直なところです。例えば、会社員の方で就農を目指すケースだと、勤めながら休日などを利用して営農技術の習得に努めるぐらいの覚悟が必要で数年後に会社を退職して実際に就農するぐらいの中期的な計画を持つべきだと思います。

Q 12 : 家族や就農する地域の近隣農家の協力は必要となりますか。

絶対に必要です。農業は本人一人でやるものではなく家族で協力して行う性質の仕事です。また、地域の農家との付き合いも大切です。営農技術を近隣農家の方に教えていただくことになるでしょうし、田畑に農業用水を引くための水路管理など共同作業もあります。純粋に地域に溶け込めるコミュニケーション能力をお持ちの方が就農には望ましいのではないかと思います。

Q 13 : 初期投資の面である程度の資金がないと就農は難しいですか。

農業はサラリーマンと違い、毎月の安定収入があるわけではなく商品価値のある農産物を生産し販売してはじめて収入となります。例えば、野菜だと 3、4 カ月はかかるでしょう。みかんであれば 1 年に 1 回の収穫・収入となります。収入を得るまでに農薬や肥料などの経費もかかりますから、ある程度の自己資金は必要ですね。また、家族がいらっしゃる方だと収入時期までの生活費のことも考えておかなければなりません。ある程度の自己資金を準備されておくようにと就農相談の中で十分な説明はさせていただいています。

Q : 14 : やりがいや生きがいの面でこれから就農を目指す方や興味のある方へ助言をお願いします。

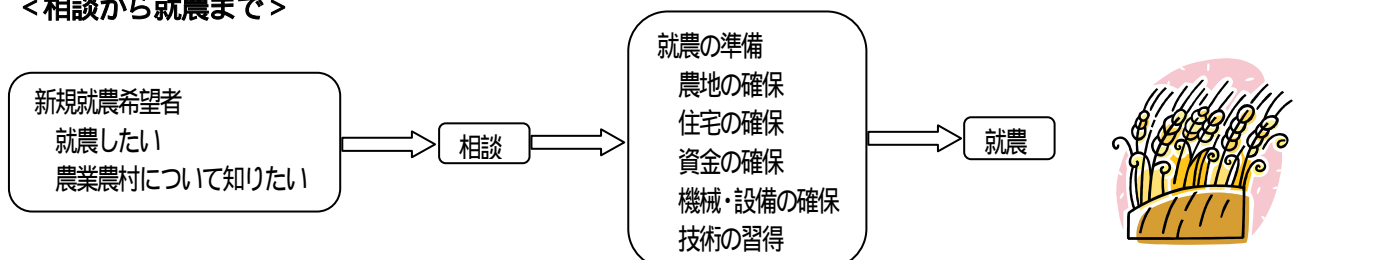
やはり農業をしたいという方は自分で農作物を生産しそれを販売できることにメリットややりがいを感じますし、自然の中で農業という仕事ができる面も大きいでしょう。しかしその反面、現実的に生産過程においてどうしても自然災害に遭いやすく自然と共存共生しなければならない難しさもあります。ですから全てにおいて当初計画や理想など就農前に考えていたことが順調にいかないリスクがあることを就農希望者は理解しておく必要がありますし、農業はこんなはずではなかったと後悔されることとなります。



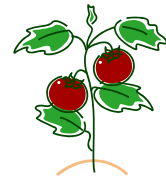
#### 公社概要

名称 : 財団法人えひめ農林漁業担い手育成公社  
所在地 : 松山市一番町 4 丁目 4 - 2  
連絡先 : TEL 089-945-1542 ・ FAX 089-932-7825  
H P : <http://www1.odn.ne.jp/cek31650/>

#### < 相談から就農まで >

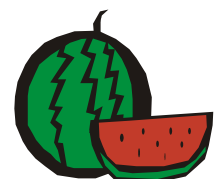


現在、新規就農支援制度などを利用し、久万高原町で新規就農をされている土屋 ゆき（41歳）さんにお話をお伺いしました。



- 新規就農を選んだ動機・理由を教えてください。  
私は東京農業大学出身でバイオ関係の学部を卒業後に肥料関係の会社で研究開発の仕事をしていました。仕事を通じて農家の方と接していく中で農業を生業することに魅力を感じ始めたのが動機でしょうか。最初から最後まで生産に携われることが自営農家の良さだと思います。会社組織の中で自立できなかった生活を脱したいと思ったことも就農を志した理由です。
- 農業の魅力ややりがいを教えてください。  
会社員の時は仕事の成果が目に見えにくかったのですが、農業だと自分の努力や工夫が収穫という単年度の成果として現れるのがうれしいですね。
- ご家族のご理解・ご協力はありますか。  
一人でやっているので直接的な協力はありません。両親は県外在住ですが母親が松山市出身ですのでお互い安心感がありますね。あと就農当初、初期投資を父親に少し出資してもらいました。
- 前職での経験は活かされていますか。  
土作りなどは大学や前職で習得した知識や経験が多少は活かされていると思います。経営面での経理に関しては未経験だったので愛媛県の就農支援担当者に指導をして頂きました。
- どのようにして営農技術を習得されましたか。  
（社）久万高原農業公社で2年間、栽培技術の研修を受けました。具体的には地元農家の8割程度の広さ（10a）の畑で栽培から出荷まで実践的な技術習得に励みました。冬の農閑期には座学で農業簿記等を学びました。
- 就農を始めた時期に苦労したことを教えてください。  
一番辛かったのはビニールハウスのパイプをほぼ一人で組み立てなければならなかったことですね。設置に慣れていなかったのが栽培開始時期に間に合わないかもしれない不安がありました。それと農業は他の農家の方とのお付き合いが思っていたよりも重要ですね。なにかと地域の方々に助けていただく機会がでてくるので上手にコミュニケーションをとれないと苦労するでしょう。
- 今後の経営目標を教えてください。  
新しい栽培方法に挑戦し、耕作面積あたりの収穫量を下げることなく労力を軽減していきたいです。やはり女性ですので体力的に辛い面がありますので。将来的には生産した農作物を利用して加工品にも挑戦したい気持ちはありますが、一人で農業をしていますから現実的に難しいと現時点では思っています。
- 新規就農を希望または興味のある方へのアドバイスをお願いします。  
私は新規就農を実現したいと思い始めてから1年弱で久万高原町にきました。もちろん就農に対する下調べや資金調達など事前に計画するのも大切です。本気で就農したいのならすぐに何らかの行動をしないと駄目だと思います。例えば趣味で行う家庭菜園での草刈りと営農での草刈りは質・量とも全く違いますから、実際に研修などで体験してみないと解らないと思います。会社員の方であれば在職期間中から休日を利用して研修に参加したり農家や農業法人に出向いて経験させてもらうぐらいの努力は必要でしょう。

現在、各種新規就農支援制度を利用し、久万高原町で就農研修を受けておられる林 健太郎（32歳）さんにお話をお伺いしました。



- 就農を希望した理由を教えてください。  
大阪で商社の営業職として働いていた当時、自分が本当にやりたい仕事は何かと考えた時に農林水産関係の仕事の方が自分に向いているのではないかと思います。希望しました。また、大学院で水産関係の学科を専攻していたのも影響していますね。仕事の成果を直接的に体感できる職業に興味と憧れをもったのが就農の動機です。

- 実際に営農研修を受講してみた感想を教えてください。

研修2年目ですが体力的に辛いとは感じていません。それよりも耕作に適した農地の確保が難しいです。私は愛媛県に所縁のないIターン者なので地域に上手く溶け込まなければいけませんから先輩農家の方々に営農技術を教えてもらうために謙虚な気持ちを自分が持たなければいけないと思います。

- 農業の魅力ややりがいとはどのようなものだと思いますか。

仕事の成果が目に見える点です。逆に自己責任の部分も多いです。自分の頑張り具合が収穫や収入に反映されるので自覚を持って仕事に取り組めることがやりがいだと思います。



- 就農に向けて不安に感じていることはありますか。

農地確保の問題だけです。当然、新規就農者は所有農地がゼロからスタートするわけですから、借地の場合でも経済的負担が課題となります。一般的に借地契約は5年から10年ですので、地主さんと良好関係を結んでおく必要があります。また、ビニールハウスなど設備投資にも経費がかかるので不安はありますね。

- 就農における将来の目標を教えてください。

安定した農業経営を実践することにより生活に余裕が持てるようにしたいです。そのためには耕地面積を少しずつでも増やす必要がありますね。また、仕事に余裕がもてるような時期になれば地域の農家と協力して新たな農業分野にも挑戦したいです。

- 就農研修希望者や農業に興味のある方へのアドバイスを教えてください。

すでに農地と住居は確保していますので、来年からトマト栽培を中心に久万高原町で就農します。個人的には農業は敷居の高い仕事だとは思いません。やる気があれば単身赴任で就農もできますし、年齢が若ければ有利になります。近年は新規就農支援制度が充実しているので勇気をもって挑戦してほしいです。農業を通じて生きがいを見出すこともできるでしょう。

- 農業の将来についてどう思われますか。

個人的には明るいと思います。地域の他の農家や農業団体などと一体感を持って協力して新しい農業関連分野に挑戦することにより、ビジネスチャンスを得ることがあるかもしれません。不安や乗り越えなければならない課題もありますが、若い年代の新規就農希望者が増えることを願っています。

土屋さん・林さんの就農支援をされている(社)久万高原農業公社の竹前事務局長さんに公社の概要と新規就農支援についてお話をお伺いしました。

メインの事業は新規就農者を定着させることです。新規就農者の支援制度や受け入れ体制が充実した内容となっておりますので就農定着率では全国トップクラスだと思います。他県からも先進地事例として視察に来ていただくほどです。営農技術取得の為に研修制度はもちろんですが久万高原町役場とも連携し、就農者が住居を確保しやすいように賃貸住居の情報提供の支援等も行っています。また、愛媛県や農業団体などの就農支援窓口とも連携し、新規就農者が久万高原町に定住し、農業を継続して行える環境作りと就農後のバックアップ体制をより一層、整備できたらと考えています。真剣に新規就農を考えている方は、是非ともご相談いただけたらと思います。



#### 公社概要

名称：社団法人久万高原農業公社  
所在地：上浮穴郡久万高原町下畑野川甲 500 番地 (アグリピア)  
連絡先：TEL 0892-41-0040 ・ FAX 0892-41-0043  
HP：http://www.kumakogen.jp/modules/agripia/index.php

愛媛県委託事業 (平成 22 年度 労働者の声発信事業)

発行 社団法人 愛媛県労働者福祉協議会

〒790-0066 松山市宮田町 1 2 5 番地 愛媛県労福協会館 3 階

TEL 089-946-2296 FAX 089-947-5616

メールアドレス e-roufuku@leo.e-catv.ne.jp